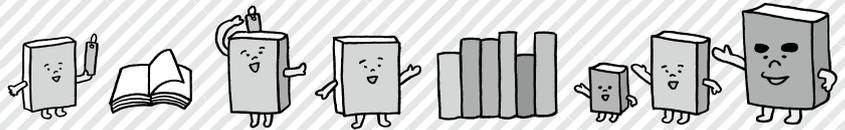


Let's go to the library

図書館へ 行こう! 5月号



やって来ました、青葉の季節が。新緑のエネルギーを浴びながら、木陰で読書も良いですね。図書館の読書テラスやおおぞらひろばで爽やかな風を感じながらの読書もおすすめですよ。

なお、ゴールデンウィーク期間中は、3日(月)のみ休館です。

今月の読み聞かせ

- おはなしひろば 毎週火曜日 10:30～11:00(おはなしひろば)
- たけのこ文庫のおはなし会 5月8日(土) 15:00～15:30
- おはなしルーム 竹田幼稚園 5月13日(木) 14:00～14:30
- 南部幼稚園 5月20日(木) 14:00～14:30

開館のご案内

- 竹田市立図書館 (TEL&FAX 63-1048)
開館時間 午前10時～午後6時 / 休館日 月曜日・第4金曜日
- 荻駅交流館図書室 (TEL&FAX 68-2200)
開館時間 午前10時～午後6時 / 休館日 土・日・祝日等
- 久住図書室 (TEL 76-0717 / FAX 76-0724)
- 直入図書室 (TEL 75-2211 / FAX 75-2217)
開館時間 午前8時30分～午後5時 / 休館日 土・日・祝日等

新刊のご案内

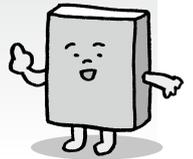
【一般の本】

- ・168時間の奇跡[中央公論新社] 新堂 冬樹
- ・悪の芽[KADOKAWA] 貫井 徳郎
- ・ムーンライト・イン[KADOKAWA] 中島 京子
- ・クララとお日さま[早川書房] カズオ・イシグロ
- ・小さな神たちの祭り[潮出版社] 内館 牧子
- ・大義(横浜みなとみらい暴暑対係)[徳間書店] 今野 敏
- ・嘘かまことか[文藝春秋] 平岩 弓枝
- ・Go Toマリコ[文藝春秋] 林 真理子
- ・短歌遠足帖[ふらんす堂] 東 直子 / 穂村 弘 共著
- ・ホットケーキミックスで愛されお菓子[学研プラス] 荻田 尚子
- ・マンガでわかる災害の日本史[池田書店] 磯田 道史
- ・九州の山[山と溪谷社] 山と溪谷社
- ・スマホ脳[新潮社] アンデシュ・ハンセン

【児童書】

- ・おにぎり! [小峰書店] 石津 ちひろ 文 / 村上 康成 絵
- ・パンどろぼうvsにせパンどろぼう[KADOKAWA] 柴田 ケイコ
- ・にげてさがして[赤ちゃんとママ社] ヨシタケ シンスケ
- ・めがねがね[ひさかたチャイルド] tupera tupera
- ・神様のパッチワーク[ポプラ社] 山本 悦子 作 / 佐藤 真紀子 絵
- ・くろりすくんとしまりすく[講談社] いたう ひろし
- ・ノラネコぐんだんと金色の魔法使い[白泉社] 工藤 ノリコ
- ・見た目レンタルショップ 化けの皮[小学館] 石川 宏千花
- ・わからん薬学事始①[講談社] まはら 三桃 作 / 大野 八生 装画
- ・十年屋⑤ひまな時もごぞいます[静山社] 廣嶋 玲子 作 / 佐竹 美保 絵
- ・よくできました! -こどもルールブック- [日本図書センター] 齋藤 孝 監修 / オブチ ミホ イラスト
- 他250冊ほど入りました。

司書おすすめの1冊



一般書 「傷痕のメッセージ」

知念 実希人 KADOKAWA



「死亡が確認されたら、すぐに遺体を解剖して欲しい」

医師である千早が父親の遺言にしたがい遺体を解剖すると胃壁に暗号が刻まれていた。千早は病理医の友人と共に暗号を解き明かすために調査を始める。父親は28年前、とある事件の犯人を追うために警察を辞めていた。そして父親の死亡と時を同じくして28年前と似通った事件が発生する――。

現役医師の著者による息をのむ医療×警察ミステリー。

児童書

「こんなにも面白い日本の神話1 天地の始まり編」

渡邊 卓 汐文社

日本神話の世界では日本の国はどのように誕生したのでしょうか?

1巻「天地の始まり編」では、イザナギ、イザナミ、アマテラスなど『古事記』上巻の前半にあたる天上世界の神々の物語を収録しています。有名な日本神話の神々の物語と巻末のコラムで、日本神話の世界をじっくりあじわってみませんか。



郷土の本

「昭和32年の竹田町」

岡の里事業実行委員会



活気に満ちた当時の街並みや行事の様子、流行などの貴重な写真資料を多数まじえながら、昭和30年代の竹田町の発展を振り返ります。当時を知る人々には懐かしく、若い世代は自分の知らない竹田を新鮮な眼で垣間見ることができます。現在の竹田の町と見比べながらありし日の面影に浸ってみるのはいかがでしょうか。

「おちばのいちば」

油布 晃

市内在住の著者の第二詩集。前半の数編に曲をつけたCD付き。絵本や童謡など多様な形態で表現された作品のほか、佐藤義美の詩を群読化したものも収録されています。群読とは、複数名で行う朗読のこと。著者が力を入れている活動の一つだそうで、もちろん御自身の著作も収録されています。

